

メタボリックシンドローム対策 総合戦略事業の取り組み

—千葉県モデルについて—

千葉県健康福祉部健康づくり支援課

実施計画 の概要

背景・課題

- メタボリックシンドロームの有病者・予備群の増加
- これまでの健診・保健指導
目的（疾病の早期発見・治療及び生活習慣の改善・保健指導）についての共通認識が不明確
- 健診と保健指導の連続性
健診結果を受診者自らの健康増進に活用するという、制度目的の不達成
- 被扶養者等の健診受診率が低調
真にサービスを必要とする者の中に、サービスを受けてない者が存在

今後の方向

- メタボリックシンドロームの概念を導入した対策の推進
内臓脂肪型肥満に着目した健診・保健指導等のサービスの提供
- 健診・保健指導の重点化・効率化
保健指導の徹底を目指して生活習慣の改善を支援するサービス全体を体系化
- サービスを必要とする者を効率的に抽出し、確実にサービスを提供
生活習慣改善の必要性を高い者を効率的に抽出し、重点的にサービスを提供
- メタボリックシンドロームの有病者・予備群の減少 → 医療費の適正化

千葉県モデルの実施

計画の目標

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)予防のための健診・保健指導の確立

計画の骨子

1 事業企画・評価委員会の設置（県）

- ①メタボリックシンドローム対策に重点をおいた効果的な健診・保健指導体制の整備に向けた事業の企画・評価
- ②効果的・効率的な健診・保健指導を検証するためのモデル実施機関の選定

2 モデル事業実証試験の実施（市町村・企業組合←県は支援）

- ①健診の実施
- ②保健指導対象者の選定・階層化の設定
・健診結果を基に保健指導対象者の選定・階層化の設定
・保健指導の階層化 ⇒ 「情報提供」「動機付け支援」「積極的支援」
- ③保健指導の実施 ⇒ 国又は県のプログラムの活用
- ④ポピュレーションアプローチの実施

3 保健指導従事者に対する研修の実施（県）

- ・市町村(国保・衛生部門等)の保健師・管理栄養士等
- ・健診・保健指導の事業企画・評価、保健指導の知識・技術

地域・職域連携協議会

連携

連携

保険者協議会

反映

健康増進計画
(健康ちば21)

千葉県モデル実施機関

国土地理院承認 平14総複 第149号

千葉県



モデル地区の特徴

地区名	九十九里町	白子町	大多喜町
人口	19,921人	13,434人	11,376人
老年人口割合	24.4%	26.0%	30.0%
40歳から 75歳未満人口	9,635人	6,698人	5,445人
平成17年度基本 健診受診率 (負担金実績)	47.3%	72.0%	35.2%
所属の保健師	3人	3人	4人
管理栄養士	1人	1人	1人

平成18年度メタボリックシンドローム対策総合戦略事業の結果について (千葉県)

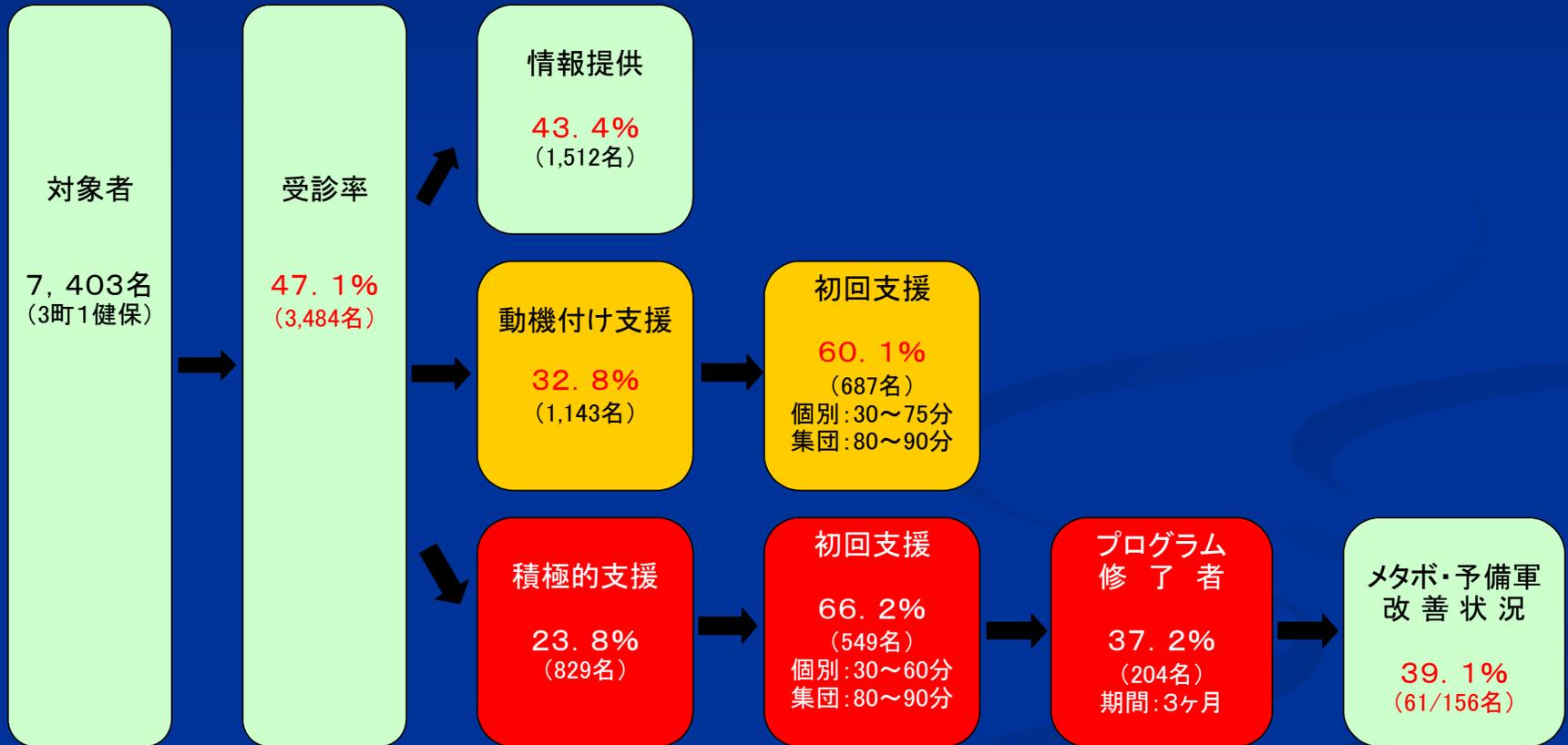
企画立案・計画

特定健診

階層化

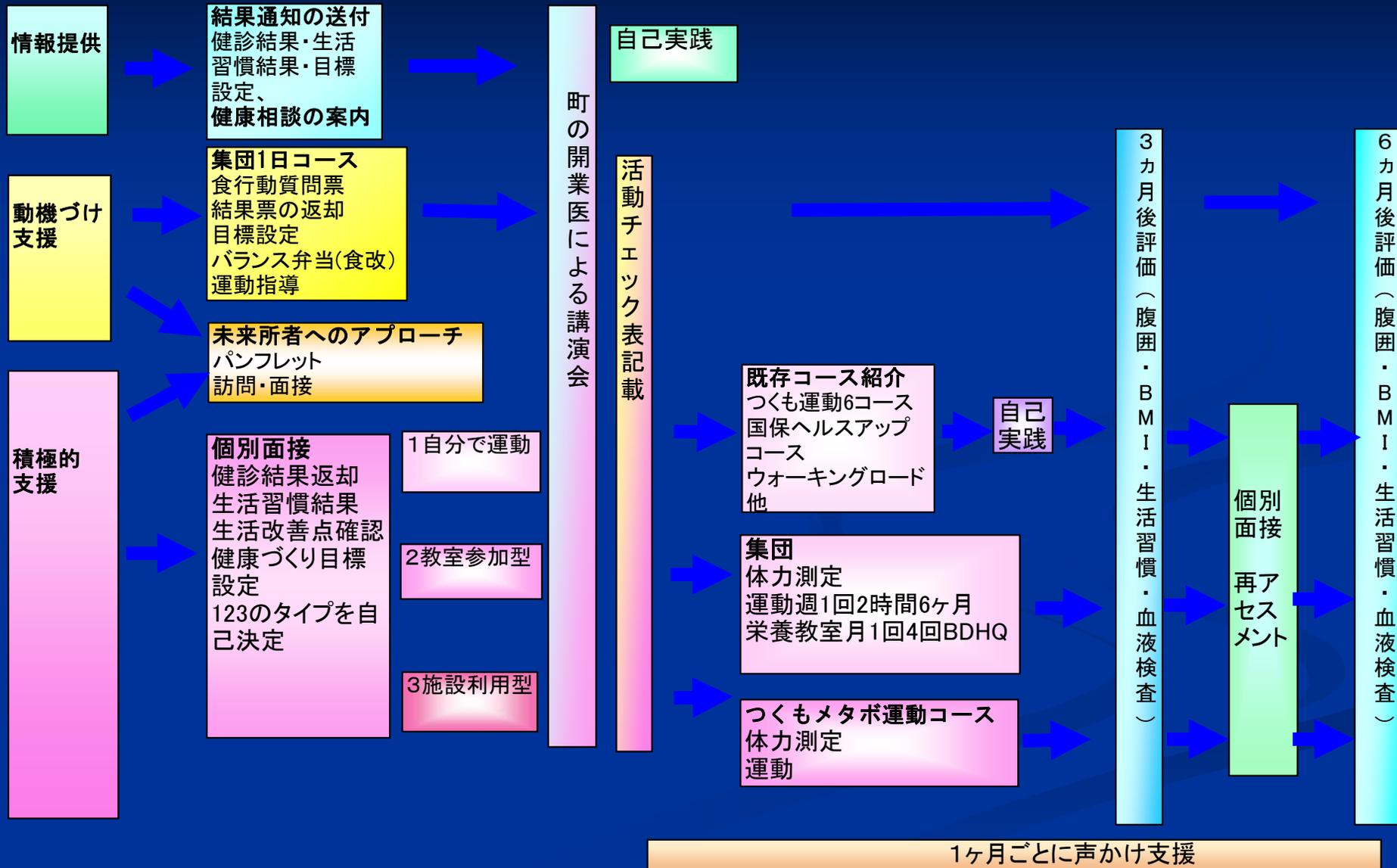
特定保健指導

評価

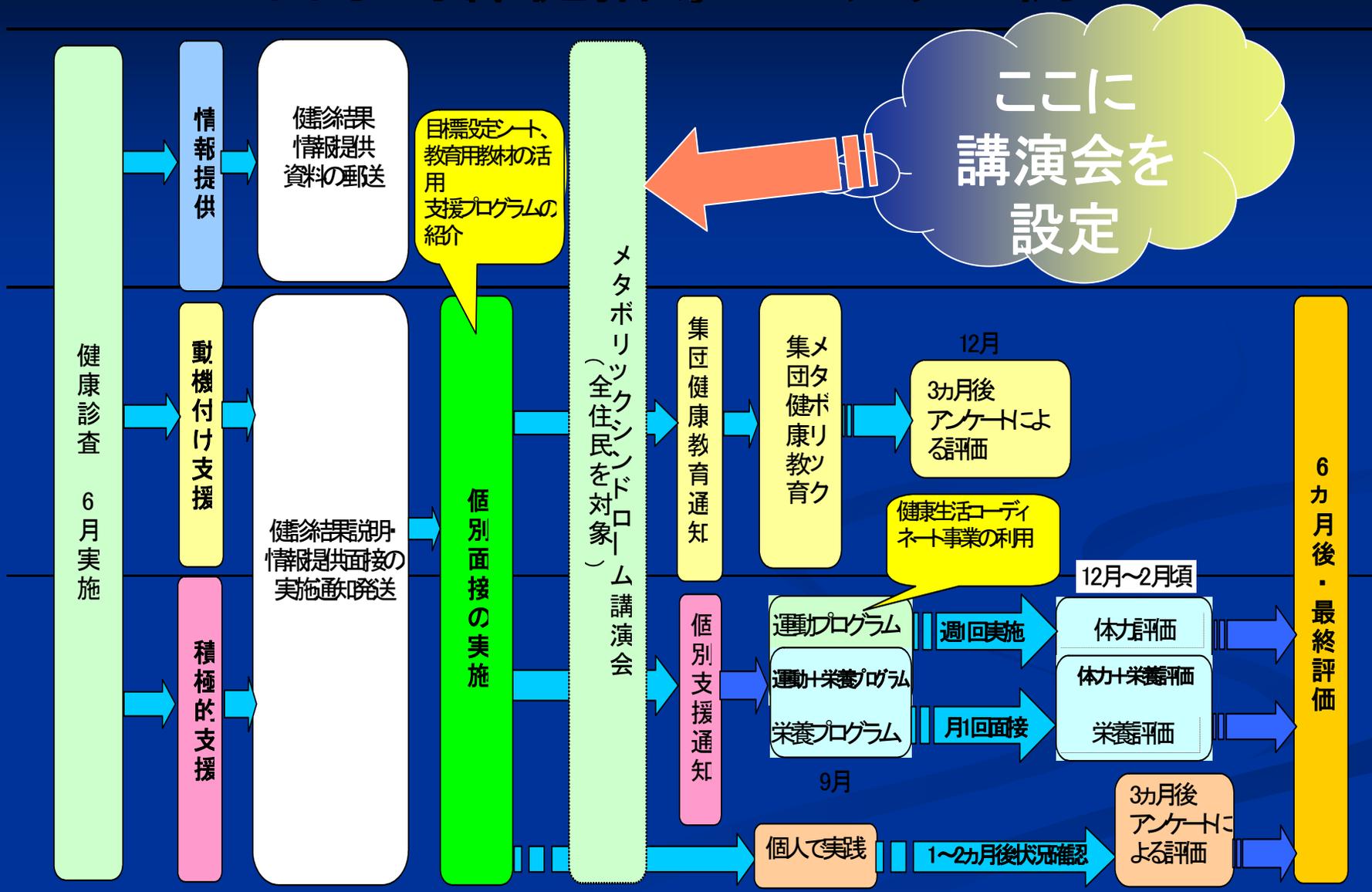


保健指導に要したおおよその
時間(対象者1人あたり)
保健師3時間35分
栄養士3時間25分

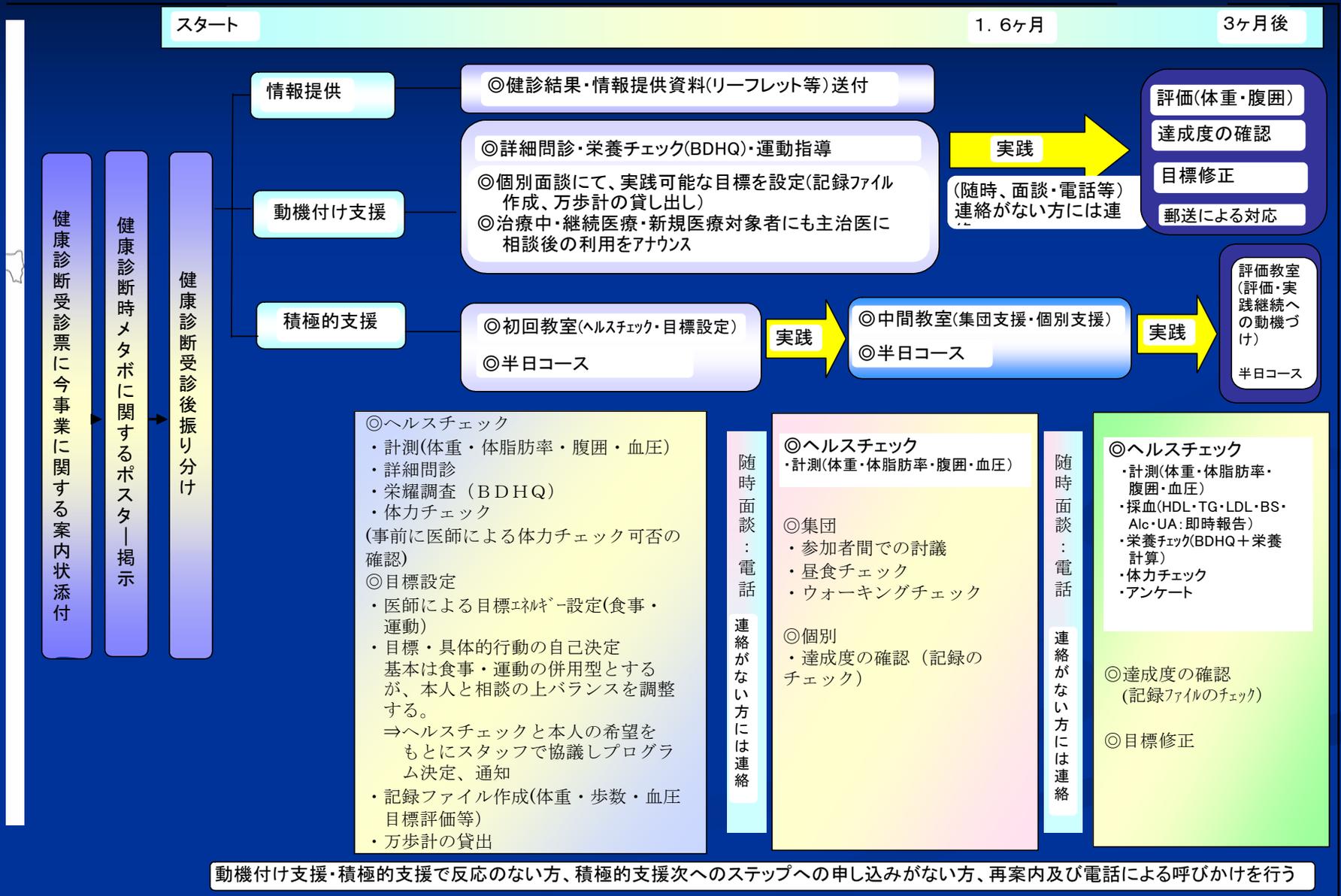
九十九里町の保健指導プログラム例



白子町保健指導プログラム例



新日鉄健保組合の保健指導プログラム例



プログラム参加への動機付けに つながった要因ー参加者からー

- 求めている時に、自分に合ったプログラムの提示があった
- 生活時間でやりくりできる時間設定だった
- メタボ講演会で参加する気になった
- 初回の面接で参加する気になった
- 家族の後押しがあった

中間評価の事例検討会で得られた参加者の声

プログラムを継続できた要因

ー 継続者の意見ー

- 自分に合ったプログラム内容だった
- 自分が利用できる時間帯・時間設定だった
- 無理のない目標設定をしたので楽しくできた
- 結果が目に見えてよくなってきた
- 体が軽くなったことを実感できた(約1ヶ月目)
- 知り合いから細くなったと誉められた
- 仲間がいた(競争者・成果の共感)
- 家族の応援、一生懸命なスタッフの存在
- 低コストで続けられた

中間評価の事例検討会で得られた参加者の声

今後の課題 I

- ハイリスクアプローチ
 1. 対象者の優先順位
 2. 人材育成
 3. マンパワーの確保
 4. 保健指導のアウトソーシング
 5. 健診後のフォロー

今後の課題Ⅱ

- ポピュレーションアプローチ
 1. 受診率の向上
 2. 特定健診・保健指導の普及・啓発

平成19年度

新制度への移行に向けた市町村等支援事業

1、アウトソーシング環境整備事業

(1) 民間開発型ハイリスクアプローチモデル事業

(2) アウトソーシングを進めるための情報提供事業

2、保健指導強化事業(人材の育成)

3、「脱！メタボ」キャンペーン普及・啓発事業

